

陸上自衛隊は部外の行事だけを支援しているわけではない。官庁間協力で環境省の依頼に基づく丹頂鶴の観測と気象庁からの依頼に基づく海氷観測即ち流氷観測が特異というか一寸変わった、一般的ではない支援ではなかろうか。

先日、陸別町のしばれフェスティバルを見学（後述の参考を参照して下さい。）しての帰途、一寸足を伸ばして家内等と網走に出かけ、流氷砕氷船オーロラ号での約1時間の迫力ある船旅を満喫した。オーロラ号に乗船しても風の影響等で流氷が沖合遙かに離れることもあり、かなりの流氷を見学出来たのはラッキーであった。集団的に浮遊している流氷を割って進むときのあのガリガリという船底から響く音は、氷の大きさを物語って、やや不気味ではあるが迫力満点だ。

また、船上から見える白い帯が白い大陸の縁端部分なのだろう。流氷と共に南下した魚を狙っているのだろうか、海面近くをカモメであろうか飛び回っている。

海氷観測は、気象庁との省庁間協力の一環として、昭和32年から北部方面隊の航空機を持って、オホーツク海及びその近海に於いて、12月から4月の間、行っている支援である。気象庁の海氷観測員の搭乗支援と隊員の海氷観測とその結果の気象庁への提供を行っている。気象庁の海氷観測員等の搭乗支援は天候の影響もあって当師団の第5師団飛行隊が毎週水曜日に行っている。参考までに、第5飛行隊は、平成7年6月1日の気象記念日式典時に、気象庁長官からの、永年の海氷観測支援に対する感謝状を受賞している。

流氷についての若干の豆知識（蘊蓄）を！

① 流氷はどうして出来るのか？

シベリア大陸・アムール川の河口に近いシャンタルスキー湾の付近11月中旬に出来始めた氷が、海流と季節風によって流出し、流氷となる。オホーツク海をサハリン沿いに南下し、その途中で成長して、海域の80%を埋め尽くす。

② 流氷の旅程！

上述の河口から納沙布岬までの1,300kmを2ヵ月半から3ヶ月をかけて南下する。3月下旬から4月上旬にかけて融けてしまうが、一部は太平洋に流出し、道東沿岸沖合いに達する。道東沖合いは流氷の押し寄せる世界で最も南の海である。

③ 流氷の速さは、条件によって違うが、平均的には時速0.7kmである。

④ 流氷は舶来氷と言ひ、沿岸の海水が結氷した沿岸氷とは異なる。沿岸氷はシャーベット状から蓮葉氷となる。

⑤ 根室半島のオホーツク海側は、海面が穏やかなところに真水の流入が多いので、海水塩分濃度が太平洋に比較して低いので、凍りやすく、反面花咲港等の太平洋側は凍りにくいのである。

⑥ 流氷に含まれる塩分濃度は0.5%前後であって、海水の1/6以下である。

⑦ 流氷の下には、たくさんの種類と量のプランクトンが活動しており、流氷の天使、クリオネもその一種である。これらを追って還流系の魚が大挙して来たり、豊富な資源となっている。

参考：小生も所謂冬（氷、雪等）祭りを見てきたが、悪口を言えば、大同小異だ。その中  
にあって、陸別町のシバレ体験は出色だ。氷のドームの中で終夜を過ごすという体験だが、  
このドームが素晴らしい。テントを膨らませ、それに薄い特殊な布を被せて、その上に夜  
を徹して、霧を吹きかけて厚さ10cm程度の氷のドームを作るのだ。陸別町では、この体  
験コーナーを始めて11回目とのことである。

